

第4章 市川市の観光の取組課題

第3章で定めた将来像を実現するために、第2章で示した現状把握調査とのギャップや「市川市のこれからの観光を考えるワークショップ」における参加者の意見に基づき、3つの取組課題を設定しました。

取組課題1 多彩な魅力の磨き上げと市川市の独自性のアピール

- ① 市内には多様な観光資源があるものの、市内外の人から十分に理解されていない資源も多いのが現状です。関心を持ってもらえそうな市民・来訪者へ、その魅力をしっかりとアピールできるよう、既存の資源を磨き上げることが求められます。
- ② バリエーション豊かな観光資源が各地に所在することから、様々なテーマ性・ストーリー性を持たせることで、魅力度や認知度、周遊性の向上、さらには観光コンテンツの高付加価値化を図ることが求められます。
- ③ 市川市には、「市川市=〇〇」といったイメージが定着しておらず、市外からの認知度が低い一因にもなっています。各地域の観光資源を磨き上げ、市全体の核・拠点となる観光資源を設定することで、市川市への来訪から市内周遊へと誘客の流れを生み出すことが求められます。

取組課題2 市民の地元愛醸成と来訪者への魅力の波及

- ④ 知人や来訪者に対して、市民が自らの言葉・想いで市川市の観光を「おすすめ」できるよう、磨き上げた観光資源を知る・体験する機会を提供することが求められます。
- ⑤ 市内の若年層や子育て世帯、学生や在住外国人が、市川市を長く住み続けたい街と認識することで、地元愛を更に深め、市内外へ市川市の魅力を広げていくことが求められます。
- ⑥ 市川市には、東京からの高いアクセス性を活用して、都会の喧騒から離れ安らぎをもたらすスポットが多く存在します。市民らが知人や来訪者に対して観光資源の魅力を伝えることで、来訪者が市川ファンとしてリピーターとなる流れを生み出すことが求められます。

取組課題3 交流や情報発信の拡大と担い手同士のネットワーク構築

- ⑦ 市民から市川ファンまでの多様な人々の間で市川市への関心を高め持続させるためには、継続的な交流やコミュニケーションが必要不可欠となります。多様な主体が交流の輪を広げながら、市川ファンの更なる獲得や積極的な情報交換を行っていく気運を醸成することが求められます。
- ⑧ 市川市および市川市の観光資源の認知度を向上させるには、資源の磨き上げに加えて、そのターゲットを明確にした情報発信や情報の見せ方の工夫が求められます。
- ⑨ 誘客や周遊性の向上、交流の輪の拡大、活発な情報交換は、担い手同士のネットワーク整備や、地域同士の連携を通じて、更なる促進が期待されます。市川市の観光を牽引するプラットフォームを構築し、積極的な連携を図りながら、観光振興やまちおこしの原動力となることが求められます。

第5章 基本方針（施策の方針）

5-1 施策の考え方

第4章で示した3つの取組課題を達成するため4つの基本方針を設定し、取組の方向性を示しました。また、それぞれの基本方針に基づいた施策を定め、様々な主体との協働により、市川市の観光振興を推進します。

基本方針1 地域ごとの魅力磨き上げと市川ブランドの確立

市川市は地域ごとに多様な資源・魅力を有しています。これらのポテンシャルを最大限に引き出し、独自性を活かした見せ方へと工夫を凝らすことで、さらに魅力あふれるものに磨き上げていきます。

また、テーマ性・ストーリー性を意識して点在する観光資源を繋げることで、周遊性や更なる高付加価値を生み出し、都市型観光を推進します。同時に、ブラッシュアップした観光資源から、市全体・各地域の核・拠点となる観光資源を選定し、「市川ブランド」の確立を目指します。

基本方針2 市民が市川市を楽しみ、来訪者も市川市を好きになる体制の構築

市民が自分の地域への理解や地元愛を深めることで、来訪者から見ても「行ってみたい・住んでみたい」と思える魅力的な地域となることを目指します。また、市民や学生、在住外国人等が市川市でより楽しい時間を過ごし、地域行事へ主体的に参加するよう促すことで、「関係性・つながり」を実感し地元コミュニティへの帰属意識を深められる体制を整えます。

これらを通じて、市外からの来訪者が市川市へ魅力を感じ、市川ファンとしてリピーターとなるよう、市民と来訪者との交流の輪を広げていきます。

基本方針3 市川市の観光を築く担い手づくりとその交流の促進

市川市の観光を築く担い手となるのは、観光関連団体や行政だけでなく、一般市民や市川ファン、地域の事業者、学生、在住外国人、まちづくり関連団体、教育機関等、多岐にわたります。担い手同士で手を取り合い、来訪者との交流を深めながら連携や継続的なコミュニケーションを図ることで、来訪者の満足度を高めるとともに、担い手にとっての喜びへと繋げていきます。

基本方針4 ターゲットを見据えた的確な情報発信

近隣地域や若者、ファミリー層、歴史好き、外国人等、それぞれの観光資源に設定した誘客したいターゲットの興味関心へ訴えかける情報発信を行います。

情報の発信媒体を充実させることで、市川市を訪問したいと思った人々が、いつでも知りたい情報を的確に入手できる仕組みづくりを行います。また、新たな担い手となった人々が持つネットワークを活用し、情報源を拡大していきます。

5-2 各施策

(1) 施策体系

基本方針1. 地域ごとの魅力磨き上げと市川ブランドの確立

施策 01	テーマ、地域、季節、属性別のプログラムづくり、魅力の磨き上げや見える化
施策 02	観光資源の新たな見せ方の工夫
施策 03	周遊促進に向けた観光スタイルの提案
施策 04	核・拠点となる観光資源の選定

基本方針2. 市民が市川市を楽しみ、来訪者も市川市を好きになる体制の構築

施策 05	市民による市内観光の推進
施策 06	子どもたちが市川市を知る・楽しむ仕掛けづくり
施策 07	学生・在住外国人への祭り・イベントの参加促進
施策 08	来訪者を“ファン”にする飽きない魅力の創出

基本方針3. 市川市の観光を築く担い手づくりとその交流の促進

施策 09	ファンを通じたすそ野の拡大
施策 10	市川ファンが担い手となる環境づくり
施策 11	地域同士の連携に向けたプラットフォームづくり

基本方針4. ターゲットを見据えた的確な情報発信

施策 12	届けたい人に届く情報発信
施策 13	地域ぐるみの幅広い情報発信(市民インフルエンサー、学生、在住外国人等の活用)
施策 14	「楽しむ」「買う」「食べる」「移動する」の“つながり”のある情報提供
施策 15	インバウンド向けの情報整備とコンテンツの磨き上げ

(2) 個別施策

基本方針1 地域ごとの魅力磨き上げと市川ブランドの確立

施策01： テーマ、地域、季節、属性別のプログラムづくり、魅力の磨き上げや見える化

- ・ 地域ごとの観光資源とその独自性に改めて着目し、その魅力への理解を深める機会や観光コンテンツを創出します。
- ・ 文化・自然などのテーマ、地域毎の特徴、四季折々の姿など、それぞれの観光資源が有する多面的な特徴を活かしたプログラムを整備し、その魅力を更に磨き上げます。
- ・ 食や特産品、体験型コンテンツなどを中心に観光資源の高付加価値化を図り、市民や来訪者の満足度や購入意欲を向上させることで、観光資源の更なる磨き上げへに向けた好循環を生み出します。

▼ 対象となる観光資源の例

- | | |
|--------------------|---|
| ◆ 歴史、伝統 | ◆ レジャー・スポーツ
(いちかわ市民キャンプ場、江戸川河口のハゼ釣り、国府台スポーツセンターなど) |
| ◆ 文化、芸術 | ◆ 寺社仏閣(中山地区、行徳地区、北西部など) |
| ◆ 自然、景観 | ◆ 公共施設(市庁舎、公園、社会教育施設、歴史的建造物など) |
| ◆ 特産品(梨、トマト、海産物など) | ◆ その他(アイ・リンクタウン展望施設、道の駅いちかわなど) |
| ◆ 季節の花(桜、バラ、紅葉など) | |

施策02： 観光資源の新たな見せ方の工夫

- ・ 観光資源・プログラムごとに、ターゲットとする来訪者の属性を設定し、ストーリー性を持たせるなど、そのターゲットへ訴えかける新たな見せ方を取り入れます。
- ・ 観光資源のセールスポイントを明確にし、その特徴がより際立つように工夫を凝らします。

施策03： 周遊促進に向けた観光スタイルの提案

- ・ 域内または地域横断的に様々なテーマ設定を行いそれぞれの観光資源を繋げて周遊性を高めます。
- ・ 市内の公共交通機関を活用し、繋げた観光資源を周遊するスタイルを市内外へ定着させます。
- ・ 周辺自治体の在住者にもアピールできるよう、市内鉄道の各駅から気軽に周遊できる観光ルートを提案し、二次交通の充実による移動手段の確保を推進します。

施策04： 核・拠点となる観光資源の選定

- ・ 磨き上げられた観光資源のうち、特に市川市を代表する、またはその地域を代表する観光資源を選定し、集客の促進を図り、他の観光資源への波及を狙うための拠点とします。

基本方針2 市民が市川市を楽しみ、来訪者も市川市を好きになる体制の構築

施策05： 市民による市内観光の推進

- ・ 身近な市川市内で、市民が非日常を楽しめるようなコンテンツ・プログラムを提案します。
- ・ 市民にもあまり知られていない市川市の魅力や、市内の他地域への理解を深められるよう、市川市の観光資源や観光プログラムを知る・体験できる機会を提供します。

施策06： 子どもたちが市川市を知る・楽しむ仕掛けづくり

- ・ 関係機関と連携し、子どもたちが学校教育の中で、市川市やその観光資源についてより多く学ぶことができる機会を提供します。
- ・ 子どもたちが親子で市川市の観光を満喫できるよう、教育現場や子育て世帯の訪問先で参加できる体験プログラムや受入体制を整備します。
- ・ 観光を通じて、住み続けたい、または、将来市外へ出ても、また市川市に戻りたいと思う地元愛を育みます。

施策07： 学生・在住外国人への祭り・イベントの参加促進

- ・ 学生や在住外国人が、祭りやイベントへ積極的に参加できるよう、実施主体による受入体制の強化と情報発信を推進します。
- ・ 参加した学生や在住外国人が、自身の活動やアイデアを発表できる場を提供することで、地元コミュニティへの帰属意識を醸成します。

施策08： 来訪者を“ファン”にする飽きない魅力の創出

- ・ 市民らと来訪者とが、継続的なコミュニケーションを通じて関係性を深め、市川市の魅力を語り合う環境を整えます。
- ・ 来訪者がリピーター(市川ファン)として定着できるようなコミュニティや受入体制を整備します。
- ・ 来訪する機会が少ない(できない)人に対して、ふるさと納税など市川市への関心が湧くような様々なコンテンツの開発を促進します。

基本方針3 市川市の観光を築く担い手づくりとその交流の促進

施策09： ファンを通じたすそ野の拡大

- ・ 定着した市川ファンが更に市川ファンを呼び込めるように、市民や市川ファン同士の交流やコミュニケーションの機会を継続的に提供します。
- ・ 遠方在住の市川ファンが特産品などのコンテンツの購入等を通じて、市川市との”つながり”を継続し、周囲の人が新たな市川ファンとなるような仕組み・サービス等を提供します。

施策10： 市川ファンが担い手となる環境づくり

- ・ 市川ファンが市川市の観光の担い手となるように、市民等との交流の場や受入環境を整える機運を醸成します。
- ・ 市川ファンや学生、在住外国人らが、市川市の観光の担い手として更なる知識や経験を得る場を提供し、自己啓発や意欲の向上へとつなげます。

施策11： 地域同士の連携に向けたプラットフォームづくり

- ・ 市川市の観光の担い手により構成される、地域を横断した市を代表する観光のプラットフォーム（オールいちかわ）を構築します。
- ・ 積極的な情報交換を通じた連携事業等を支援し、地域一体で観光の担い手となる気運を醸成します。
- ・ 観光が持つ裾野の広がりを捉え効果的な取組を行うため、市役所の関連部署の連携はもちろんのこと、様々な分野・業種の団体・事業者の交流を促進し、一体的な観光政策の推進を図ります。

基本方針4 ターゲットを見据えた的確な情報発信

施策12： 届けたい人に届く情報発信

- ・ 設定したターゲットに適切に届く情報媒体を選択し、そのターゲットにとって訴求力がある内容となるよう、情報の選別や見せ方を工夫します。
- ・ 市川市観光協会やその他の関係団体との連携を強化し、情報発信の機会・手法を増やすことで、市全体としての発信力アップを図ります。
- ・ 旅前・旅中・旅後といった、来訪者が旅行を計画し来訪する実際のサイクルに合わせて、情報ツールや情報の内容を的確に選択し発信します。

施策13： 地域ぐるみの幅広い情報発信（市民インフルエンサー、学生、在住外国人等の活用）

- ・ 新たな担い手が自らのネットワークを活用し、観光情報を発信できる環境を整えます。
- ・ 市民インフルエンサー、学生、在住外国人らが、自らが感じたことを友人・仲間といった横の繋がりを向けて広げていく気運を醸成します。

施策14： 「楽しむ」・「買う」・「食べる」・「移動する」の“つながり”のある情報提供

- ・ 磨き上げた観光資源・プログラムを組み合わせることで、より多くの楽しみ方を提供します。
- ・ 観光資源そのものだけでなく、移動手段からグルメまで、“つながり”のある情報を提供することで、一つのコンテンツとしての魅力を最大限に発信します。

施策15： インバウンド向けの情報整備とコンテンツの磨き上げ

- ・ 東京都内や成田空港・羽田空港からのアクセスを活かし、訪日外国人向け（インバウンド）の情報の見せ方・発信ツールを整備します。
- ・ 多言語化の促進や、外国人の興味関心に合わせてコンテンツの改良を行い、市川市の観光における訪日外国人への魅力度アップを図ります。